

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成15年11月(2003年) No.455

<随想>

”年をとる”ということ

会長 合原一夫

今度の衆議院議員選挙において、小泉自民党総裁が、中曽根元総理と宮沢元総理に、なかば引退を迫ったとき、宮澤さんはあっさりと受け入れたが85才の中曽根さんは「私はまだまだやる。引退などしない」と怒ったとかマスコミの話題を賑わせていた。なるほど、85才といえば高齢だし、一般論から言えば世代交替で隠居してもむしろ遅いくらいの年齢である。

しかし、中曽根さんは決してボケていないし、テレビ放送を聞いても今なお天下国家を論じてスケールの大きなところを見せておられる人である。人はサマザマである。中曽根さんを見ていると”年をとる”ということの解釈が、単に、年齢だけの問題ではないなと思ってくる。中曽根さんの思想信条の評価は人それぞれであろうが、精神的にも肉体的にも「私はまだやれる！」と自信を持って宣言できるお年寄り、ある意味で立派であり見習うべきである。

ひるがえって、私たち映像の趣味仲間を見回してみると、皆、確実に年をとっているにも拘わらず元気一杯の人が多いのには驚く。70才をはるかに超えた人も海外撮影旅行をしてきて私達を楽しませてくれたり、カメラと三脚をかついで山行の撮影をされている人もいる。確かに足腰は若い頃のようにはいかないが、頭の回転は若干モノ忘れはするようにはなったけれど、まだまだ元気で難しいパソコン編集にも取り組んでいる人が多い。映像の趣味というものは、適当に体と頭の健康を維持し、それより何より同好の仲間と語り合えることが楽しい。さあ、元気で行こう！

11月例会は第5土曜29日

— お間違えなきように —

いつもは第4土曜日が例会日ですが、11月の第4土曜日は会場側の主催行事のために貸室はありませんので、止むを得ず第5土曜日にしています。29日午後6時より、いつもの梅田の例会場で開催します。どうぞ作品をお持ちになってお集まりください。

■予告（1）

1月例会は第3日曜日の昼間に総会兼新年会はその夜開催

毎年、総会兼新年会は1月半ばの日曜日の夜に開催していて、例会とは切り離していましたが、平成16年1月例会と同じ日に行うことにしました。

1月例会は第3日曜18日13時30分よりいつもの例会場で開催し、それが終わってから総会兼新年会の会場へ席を移りたいと考えております。したがって、従来会場を難波「法善寺さと」でやっていたのを、例会場が梅田ですので、今回は阪神百貨店の地下2階にある「スーパードライ阪神」としました。（例会場より歩いて4～5分）

1月は一番寒い時期でもあり、わざわざ夜、新年会のために出掛けるのもしんどいという声があるのと、日曜なら昼間の例会でもよい、とする声が聞かれましたので、会場変更が可能だったこともあって、以上のように決めさせて頂きました。追って出欠の手続きなどは来月になったら致しますのでよろしく願いしておきます。

■予告（2）

12月例会は恒例により第3土曜日に行いますが、それに先だって、期末でもありますので世話役会を開催します。世話役の方は、できるだけ午後のほうも時間を空けておられますようお願いいたします。

■ドラマ撮影会のご案内

「映像きしわだ」が企画、参加呼びかけ

大阪アマチュア映像連盟加盟クラブ「映像きしわだ」が、男女のタレントを使ってちょっとしたドラマを企画しています。11月29日（土）8時45分～17時まで、岸和田市中央公園。集合場所は岸和田市立文化会館駐車場8時45分。演出：柴辻英一氏。参加費：1,500円（当日会場にて）。ドラマは編集のコツを習得するのに大変勉強になります。関心のある方、行ってください。但し、夜はOMCの例会日ですので、早めに切り上げ、二次会はやめて例会場へ引き返してください。ご希望の方は合原会長まで、早めにお電話ください。資料差し上げます。

10月例会レポート

すっかり秋本番入りしてきた10月例会。ビデオ好きな会員諸氏が定刻前より続々と集まり、今月も24名の会員さんと12本の作品で、比較的ゆったりと楽しく充実した例会となりました。今月の司会は合原会長、書記、安居氏、デッキ係は増池、河合の両氏、受付兼照明係は宮崎、渡辺両氏の担当で行いました。

先月うまくいかなかったワイド画面が今回、初めて前田、関両作品で実現しました。

■出席者：有村、今井、江村、岡本、上総、紙本、金子、河合、小竹、合原、関、進藤、那須、中尾、藤原、宮崎、前田、増池、森、森口、安居、吉岡、渡辺、山本の24氏。

■上映作品（今月の短評は安居世話役です）

1. ワイドテスト知恩院（ワイド）

前田 茂夫さん 4分57秒

これからはワイドの時代だと主張される前田さんの知恩院を撮られた作品です。地上波デジタル放送もワイドになり、われわれのビデオ映像もその流れに乗ることは確かですが、今の時点ではカメラを初め映写装置も適応していないのが残念です。4：3の画面の上下を切ったという印象はぬぐえません。次の作品の関さんも言われていましたが、松下の3 CCDは斜めのチトルには弱く水平の線のギザギザが目立ちます。しかしこれからはワイドで撮ることも考えていく必要があると認識を新たにされた貴重なテスト映写でした。

2. クロスヒル（ワイド）

関 剛さん 7分55秒

レクイエム3作目の作品、構成力がすばらしいと思いました。クロスヒルの無数の十字架、それをなめながら、時にはアップ、時には残像効果を加えながら音楽にあわせて展開していきます。そしてヒットラーが出てきて、アウシュヴィッツの写真、見ていて心理的に違和感がありません。直接関係のないクロスヒルが非常に効果的な演出をかもし出しています。鎮魂が全体として胸をうちます。1952年になくなった人の十字架が2002年にクロスヒルに献じた記録のカットがありました。ビデオは「つ

くる」という見本のような作品です。写真が少し多すぎたという意見もありました。

しかしクロスヒルだけでこれだけの作品を作られる感性には脱帽です。

3. 蓮の季(とき)改作

増池 茂さん 5分25秒

前回の作品を改作されただけのことはあると思いました。「皆さんの意見を取り入れて改作しより質の高い作品にするよう努力する」これが OMC の会員の特徴です。蓮の葉に酒を入れ茎を通したものを飲む、これが増池さんのメインカットとありますが構成上かなり割愛されました。それはよかったと思うのですが、司会も言っておられたように、スーツ入っていったすばらしい蓮のカットの連続が増池さんのメインカットで逆に流れが中断されてしまうのはなぜなのでしょう。いっそメインカットは別の作品にした方がすっきりするのではないかと思います。ドアップのすばらしいカットも関連グループでまとまりがあり、以前との進歩の差がはっきりわかります。これからの作品に大いに期待が持てる作家だと思います。

4. 清姫情炎(改作)

岡本 至弘さん 11分30秒

これも改作されただけあってよくなっているのですが、部分的には前回のほうがよかったところもあります。最後の炎の構成は今回ののが圧倒的によかったです。しかし川の中の清姫の演技と川霧の合成は手持ち撮影の悲しさ、きちんと合っていない故にかえって違和感が感じられました。前半の清姫の、いわれのナレと坊さんの絵とき(面白いですが)は重なる、との意見もあり短縮してスマート性を出されたら後半もっと盛り上がったのではないのでしょうか。ラストの花火はいらないと私も思いました。(岡本さんから率直な批評と言われていたので……すみません。)

5. 上杉軍団行進

吉岡 貞夫さん 9分44秒

前回の武てい式につづく第二弾、因みに第3弾が川中島の合戦になるそうです。今回も三脚に乗せた安定した画面ですので安心して見られます。米沢市長が自ら甲冑を

着て馬上からの出陣の挨拶ですから、上杉軍団に対する力の入れようが半端じゃないことがわかります、それにもまして吉岡さんの思い入れも画面の端々に感じられました。それが前回鉄砲隊の射撃の迫力というような山場が今回はないのに10分近い映像を飽きさせず見せる原動力になったのかと感心しました。行進する軍団の足のアップ、馬のアップなど巧みな構成がやはりうまいなおもいます。やはりベテランだけのことはあります。

6. 自立の町平野

安居 利次さん 6分55秒

実はこれサボりの作品です。最近の映像は少しだけ、過去の映像をつなぎ合わせてつくりました。そうゆう意味でもう一つ迫力のないものになってしまいました。

7. お盆の日

山本正夢さん 7分20秒

山本さんが日本を描くはずなのにタイトルを見て思いましたが、やはりラオスのお盆でした。死者の霊を迎えるという趣旨は同じでも表現は国によって全くちがうものなのですね。托鉢がお坊さんの基本ですが日本では特殊な行事になりました。ラオスではお盆は祭りなのでしょう。非日常の出来事を山本さんはうまく見せてくれます。構成の壺を心得ていて飽きさせず最後の盛り上がりにもうまくつないでおられます。毎回、ツアー旅行では絶対撮れない映像を見せてもらえるのが楽しみです。

(以下、合原加筆)

山本さんの作品は、いつも楽しみにしております。珍しい風物、観光客の行かない異国の地の映像は、新鮮な魅力があります。山本作品を更に良くするために、今後は「音」のことを一層勉強してほしいと思います。今回の作品も現録だけの方がより効果があったと思われるカットがありましたし、歌詞の入った BGM だけでなく、雰囲気をも盛り上げるための音楽もあるはずですので、検討してみてください。私達は外国語の歌詞の内容が理解し得ないので、どんな意味なのか判りませんが、判る人が見たとき、映像と歌詞の内容が全くあわない、或いは逆のことを言っている、なんてことも

あり得ます。したがって歌詞のない BGM を使ったほうが無難だし、映像に対し BGM が控え目でよいと考えます。

8. 憧れのスイスアルプス

有村 博さん 15分12秒

15分は長いかなと思いましたが全く感じさせませんでした。山のカットがきれいなのと人を巧みに配した構成はさすがです。スーパーの山の名が親しみのあるものが多く、なるほどこの山がそうかと全く行ったことのない筆者も納得しながら見ていました。その上に有村さん夫婦の笑顔が雄大な山のシーンの間にうまく挿入されていることでほっとします。同時にご夫妻は本当に山が好きなんだとこれも無理なく共感することが出来ました。ツェルマットから見たマッターホルンの朝焼けのシーンは何度見ても素晴らしい。これで見終わった後も納得です。

9. 花火を見に行く

江村 一郎さん 6分

タイトルは江村さんの素直な性格をそのまま表現しているようで面白いとおもいます。初めの人物の登場も「花火だけを撮ったんでは面白なくて…」、納得。(少しカットが荒っぽいですが…) 花火のカットをあそこまでアップにするかと驚きました。全画面が真っ白になるところがあります。

引いたカットが少なくそれが、逆に全体を盛り上げています。花火のカットの間に「後何分？」という音声の暗い観客(初めの人物)を印象づけ華やかな花火の画面をもりあげます。その組み合わせがうまいと思いました。花火の音はうまく調整して録音されていましたが、最後よさこいのSEがあるところはオートなのかりミッターがかかってしまっていて残念です。初めの花火の音とよさこいのきれいな音をPC上で再合成されたら…と思いました。

10. 湖東の名水

森口 吉正さん 9分

作者の名水ビデオは回を重ねる毎に研ぎ澄まされ完璧になってきます。このまま、オンエアしても見ている人は放送番組として違和感を感じないのではないのでしょうか。それほど堂に入ったできばえです。朝

早くからマイカーで目的地までいかれ納得のいくまでカットを撮ってこられます。そしてカットを見ながらナレ原稿を作ります。PCの音声のタイムラインにナレを貼り付け、合ように映像を編集するのだと飲み会の時うかがいました。でもその配合が感性なのです。同じようには出来ません。最後に一言、弘法も筆の誤りか、司会も言っておられましたが、ラストのたわしは流れとして、違和感がありました。

11. バンフ国立公園(後)

那須典彦さん 3分23秒

カナデアンロッキーの山々のカットは目が覚める美しさです。作者の撮る技術が素晴らしいのでよけい引き立てます。前編はOVCで公開されました。両方のクラブには知っている人はいいいのですがそうでない方は戸惑います。前後編あわせても7分余ですから分ける必要がないと司会も言われていました。でも作者は短いほうがいいと主張されています(笑い)。作者はどんなときでも手早く三脚にカメラを固定し瞬間的に水平もとれる特技をお持ちになっているのでどの作品も安心してみられます。筆者など、撮ったテープの1/10もつかえばいいほうですが那須さんは2/3は使え、PCのタイムラインに貼り付けるときもあまり切り貼りしなくていいという天性の撮影技術の持ち主なのです。

12. 浪速の夜

小竹 正さん 6分40秒

ベテランだけあって、しっかりしたカット構成です。カメラはHi8デジタルとのことでしたがやはりデジタルに負けない黒の抜けでした。Hi8デジタルで撮られた方は今までなかったので参考になりました。法善寺横町が焼ける前だったのですね。その点でも貴重な映像です。同じ場所でも昼撮れば全く絵にならなかったでしょう。やはり南はネオン、夜が最高です。何も言うことはありません。素晴らしい作品です。

以上で、作品上映を終わり、11月16日の大阪アマチュア映像祭への観客動員などのお願ひし、いつもの通り喫茶組と居酒屋組に分かれ二次会場へと席を移りました。